

寒波によるエコキュート・電気温水器配管の凍結について

本年も、寒波が訪れる季節となりました。

暖かい地域でも外気温が寒波により0℃以下になると、エコキュートや電気温水器（以下、電気給湯機）の配管が凍結してしまう可能性があります。

電気給湯機の配管が凍結してしまった場合の対処方法についてお知らせします。

もし、電気給湯機の配管が凍結してしまったら

① 気温の上昇により自然に解凍するのを待つ

電気給湯機が凍結して動かなくなる主な原因は、ヒートポンプユニットおよび貯湯タンクユニットから浴槽の循環口につながる風呂配管部分が凍結することが主な原因です。

翌朝、外気温の上昇により、配管内部で凍結した氷が溶けて解決する可能性が高いです。

外気温が暖かくなったら、台所リモコンに表示されたエラーを解除して、再度電気給湯機を運転させてみてください。

給湯栓（蛇口）を少し開いたまま待つことで直ったり、何もしなくても解決する場合もございます。

② 配管にぬるま湯を掛けて溶かす

自然に解凍するのが待てない場合は、凍結した配管をあたためて氷を溶かします。

その場合、凍結した配管にタオル等を巻いて、その上から人肌程度まで冷ましたぬるま湯を掛けて、ゆっくりと配管を温めてください。

熱湯のまま凍結した配管にかけてしまうと、配管が急激な温度変化に耐え切れず、破裂してしまう可能性がありますのでご注意ください。

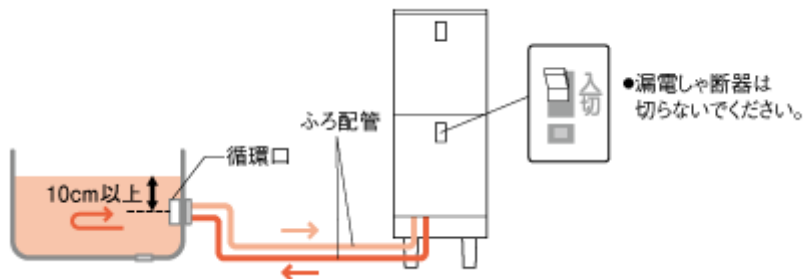
また、配管にかけたぬるま湯をそのままにしておくと、外気に冷やされて再び凍結してしまう可能性がありますので、配管にかけたお湯はしっかり拭き取っていただくようお願いいたします。

【ご参考】電気給湯機の凍結防止策について

◆お客さまにもできる、かんたんな凍結防止対策についてご紹介させていただきます。

①入浴後に湯船からお湯を抜かない（フルオートタイプの場合）

入浴後に湯船からお湯を抜かず、循環口より 10cm 以上多めの量のお湯を張ったままにしておくと、電気給湯機とお風呂をつなぐ配管の中にも水が入ったままの状態になります。フルオートタイプの場合、外気温度が低くなると（概ね 3℃以下）ふろ配管の凍結予防運転を自動で行います



湯船に湯が入っていない場合は、循環口から水が出たり、ゴボゴボと作動音がする場合があります。寒い日は、お風呂の湯を抜くのを翌朝にすることで、簡単に凍結予防が出来ます。

②給湯栓から少量の水を出しっ放しにする

外気温が 0℃以下になると、保温工事を行っていても、配管が凍結する場合がございます。この場合、給湯栓（蛇口）を少し開けておいて、水を出しっ放しにしておくのが効果的です。1 分間に 200cc（コップ 1 杯分程度）の水が出るようにしてください。川の流が凍らないように、配管の凍結防止には水が流れ続けることが効果的です。

③長期間家を空ける場合であってもエコキュートの電源は切らない

エコキュートは本体とヒートポンプユニット（室外機）の配管に常に水があることから凍結する可能性が高く、電源を切ると凍結予防運転が出来ませんので、電源は切らないでください。

④露出している配管に新聞紙か布を巻く

水道管や給湯管は、タオル等を配管に巻くことによって、凍結防止が出来ます。